

令和7年2月20日

2月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では、2月に入って県西・県北地域とも間伐中心の作業となっており、しばらくは間伐材の入荷が多い見込みである。スギは価格も安定し弱保合で推移、ヒノキは依然として強保合が続いている。スギは3.0m柱材で17,000円台後半、4.0m中目材も16,000円台半ば。ヒノキは品不足から高値が続いており、3.0m柱材で23,000円台後半、4.0m中目材は24,000円台半ばで推移。

群馬県では原木の出材量が回復し集荷は容易になった。製材工場の原木在庫はスギ、ヒノキとも100%である。操業は70%程度だが、公共工事等受注のためフル稼働で販売は回復傾向にある。首都圏・地場向けは芳しくない。製品在庫は間柱、仮筋、貫等が少なく、柱等の角類は均衡。4mの90角・105角KDは少ない。販売単価は維持しているが、原木単価の上昇で厳しい。灯油など乾燥経費の上昇が大きい。

2. 米材

1月の米国住宅着工数は136.6万戸(年率換算)で前月比9.8%減、前年同月比では0.7%減となった。米国製材品市況は全樹種でほぼ横ばい推移。ランプ政権のカナダ製材品への25%の追加関税が1ヵ月延期されたが、現実化するのか不確実性のため様子見の状態である。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(2/5)は432/MBF、12月末に比べ0.7%の下落。原木の伐採は順調で港頭在庫は潤沢な水準にある。米マツIS級並の2月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。

12月原木入荷は2024年で4番目に多い144千 m^3 となり、1~12月累計では1,472千 m^3 (前年同期比14.2%減)、カナダからの入荷は29.5%の大幅減。出荷は115千 m^3 となり、1~12月累計では1,523千 m^3 (同11.5%減)、在庫は174千 m^3 、在庫率は1.46ヵ月。東京木材埠頭の1月製品入荷は8千 m^3 (前月比14.4%増)、出荷は9千 m^3 (同3.9%減)、在庫は27千 m^3 (同3.2%減)。円安で輸入製品が減少し、米マツ小角/小割の需給が引き締まり、国内米材製材最大手は米マツ小角/小割を1/14出荷分から3,000~5,000円/ m^3 の値上げを実施した。

3. 欧州材

第1・四半期交渉はユーロ価格の上昇、オファー数量の半減で終了した。産地側インフレによりユーロ価格の更なる上昇が見込まれる。国内の間柱類の流通在庫は減少し引き合いが増えており、第1・四半期積みが入荷してくるまでは品不足が続くそう。輸入集成柱・梁は産地価格が上がったことで、国内集成材メーカーで値戻しの動きが見られる。しばらくは輸入物/国内物の価格は強含みが続くだろう。12月の東京港入荷は12千 m^3 と前月比で少し増加、出荷は18千 m^3 と前月比減少。在庫は44千 m^3 で順調に減少しており、1、2月も引き続き減ると見られる。ウクライナ紛争の今後の行方やトランプ政権の追加関税の実施の影響を考慮する必要があるが、世界的に木材供給はタイトになると予想される。

4. 北洋材

産地では1月後半からようやく冬らしい気候になったが、伐採搬出は経済状況や需要の弱さのため低調である。依然として中国からの引き合いは強くないが、ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調である。アカマツ完成品の産地価格は\$570~560/ m^3 まで下げてきたが、円安でコストは大きくは変わらない。国内でのアカマツ野縁製品は数量不足により10万円台を維持している。全グレードに引き合いが強い。代替材からアカマツ回帰の動きが見られる。為替乱高下にもかかわらず、国内価格は翻弄されることなく推移している。12月の製品入荷（東京+川崎）は8.8千 m^3 で顕著な入荷増は見えてこない。出荷は11.9千 m^3 で実需に迫力がない。在庫は25.5千 m^3 で在庫水準は漸減が予想される。

5. 合板

合板工場への原木入荷は全国的に減少しており、工場の原木在庫量が1ヵ月を切るメーカーもある。1月もメーカー在庫が少なく、またトラックの確保に時間を要し、納期遅れが続いている。メーカーが2月の値上げを表明したため、注文が集中している。価格も値上げに転じている。12月の合板生産量は21.8万 m^3 。針葉樹構造用合板の生産量は19.7万 m^3 、出荷量は20.9万 m^3 、在庫量は14.5万 m^3 で前月より11.5千 m^3 減少。輸入合板の入荷は例年並みだが、一部現地シッパーで日本からの注文に対応できない状況。また1~2月は船積みが増えるので、品薄と欠品が懸念される。2024年の合板輸入量は210.7万 m^3 、前年比6.2%増。マレーシアでは原木不足が深刻で日本からの注文に対応できない状況。インドネシアでは日本からの注文が減少している。

6. 構造用集成材（国内産）

1月のラミナ入港量は前月に比べ約2割の増加。ラミナは適正在庫であるが、木造住宅需要の減少により契約量を絞っていく動きになる。第1・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€280～290/m³程度。産地では欧州域内の需要減に伴い、減産体制をとる見込みである。国内集成材メーカーの受注は前年同月比90%の水準であるが、4月からの4号特例縮小を加味した前倒し着工が一部に見られる。1月の構造用集成材の輸入量は小断面27,194 m³（前年同月比33.6%増）、中断面14,700 m³（同15.3%減）。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材（C材）の引き合いが強い。入荷は例年並み。燃料材では能登半島地震の震災廃棄物の処分が本格化し、一部地域では受入抑制が見受けられる。チップ工場では処分費の値上げの動きも見られる。製紙会社では用紙、板紙ともに抄物の集約化を進めており、原料構成が変化している。総じて製紙用原料は減少。年末年始は燃料用の需給が逼迫するが、今冬は震災廃棄物の大量発生により集荷の混乱はない。原料用・燃料用とも在庫過剰気味で推移している。

8. 市売問屋

東北地方では原木不足により原木価格が値上がりしている。KD材も少し不足になるとのことで値上げに進んでいる。北洋材、欧州材に少し値上がりの気配があり、国産材も値上げ傾向がある。ただし、不足感を感じる材はあまり見当たらない。新築戸建住宅の構造材はプレカット工場に流通するので、増改築用の構造材は少量しか動きがない。造作材の動きも良くない。

9. 小売

木材、建材とも戸建住宅向けの不振が続いている。輸入製品や合板は在庫調整が進み、年末に底入れした模様であるが、実需は弱く市況の盛り上がりにはつながっていない。ヒノキ材産地では構造材の値上げが提示され、従来価格での集荷は困難になった。ただし手当は慎重になっており、価格は据え置きになっている。米マツ構造材は国内最大手の値上げで輸入品も含め強気配。構造用集成材も値上げに進みそうだが、需要が伸びておらず不透明感が強い。造作材では国産材役物平割の入手が原木の出材減で困難になってきた。高値張り付きの米ツガ、スプルースの代替材として定着していただけない今後の動きに注視したい。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年2月20日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	→	→	↘

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	→	→

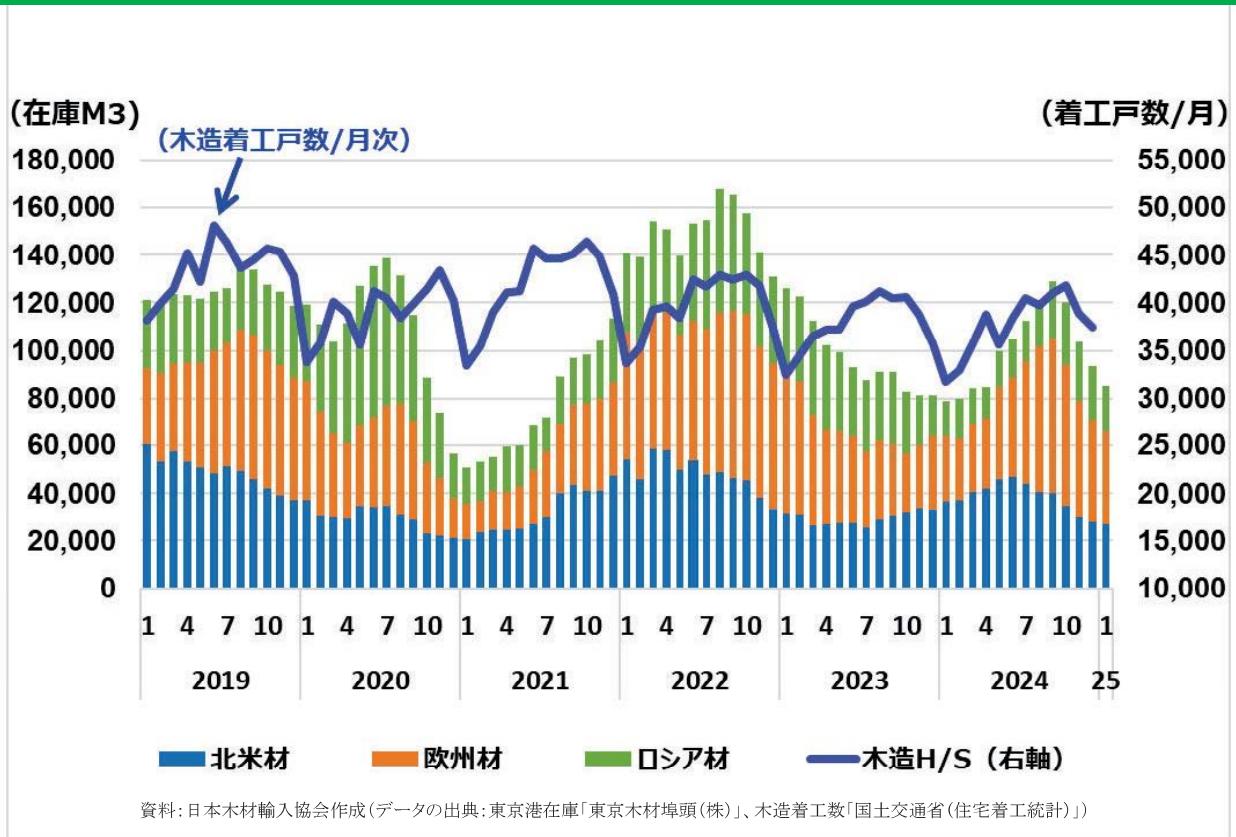
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
	ヒノキ土台角(KD)10.5×10.5×4m 特等	→		
ヒノキ土台角(KD)12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13'	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
			アカマツ(KD) 30×40上級	→
	欧州産		アカマツ(KD) 24×28 積木	→
			ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			ホワイトウッド'集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

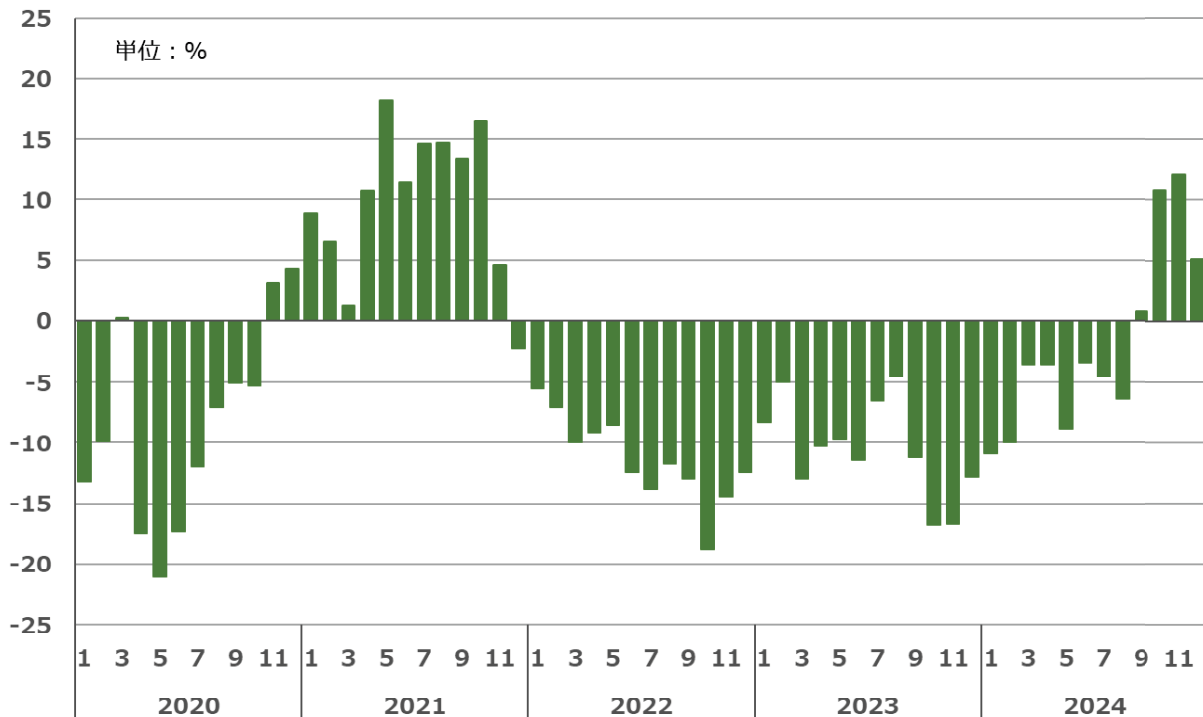
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～25年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

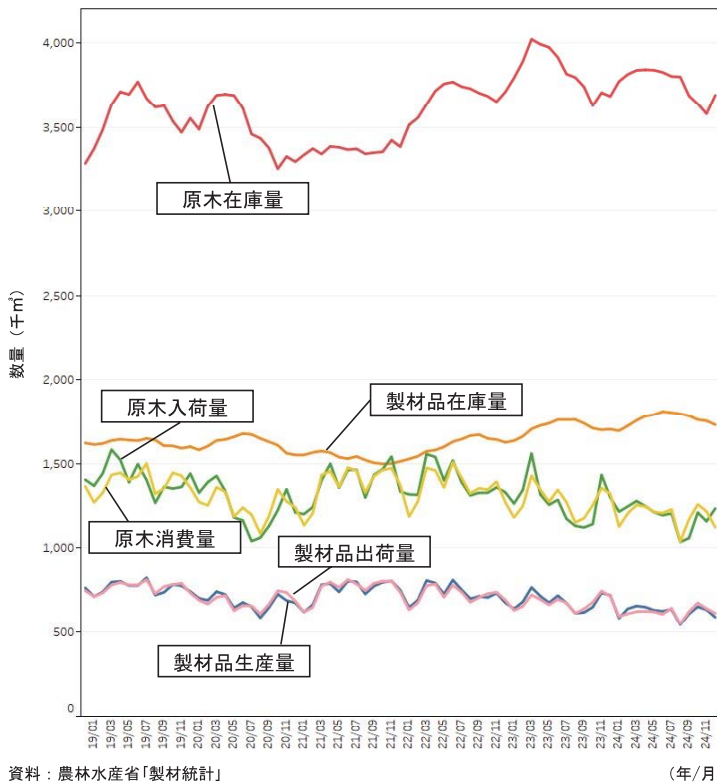


資料：国土交通省「住宅着工統計」

参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

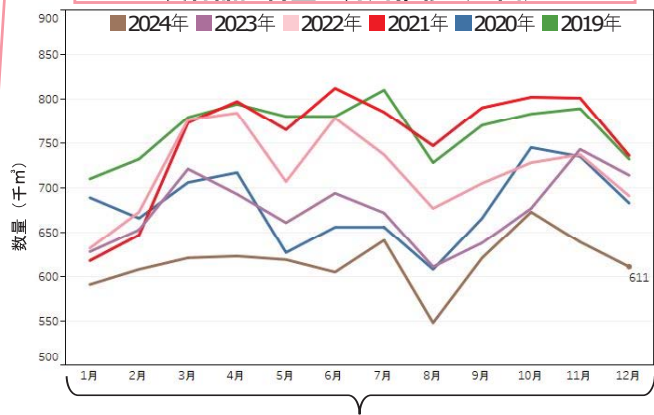
- 2024年1～12月の原木の入荷量は14,280千m³（2019年比84%）。
- 同様に製材品の出荷量は7,400千m³（2019年比81%）。



資料：農林水産省「製材統計」

（年/月）

製材品出荷量の月別推移（全国）

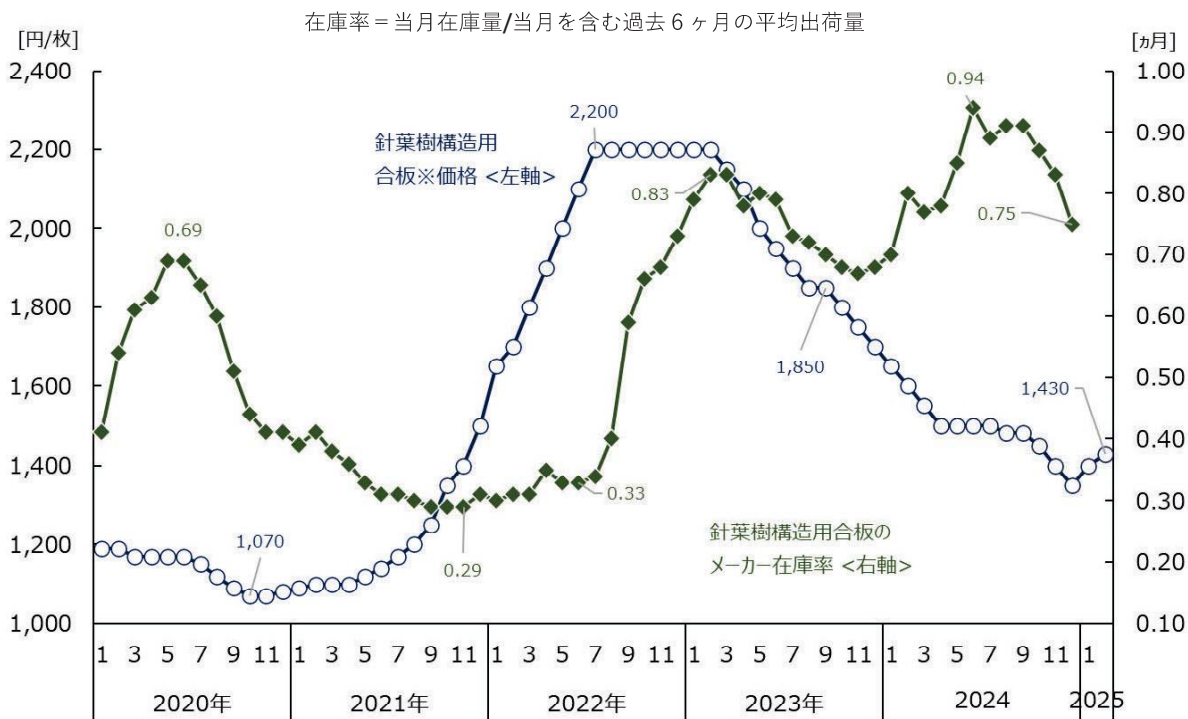


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～12月原木入荷量合計(千m ³)	16,974	14,824	16,685	16,677	15,308	14,280
2019年との比較*	-	87%	98%	98%	90%	84%
1～12月製材品出荷量合計(千m ³)	9,187	8,154	9,073	8,625	8,105	7,400
2019年との比較*	-	89%	99%	94%	88%	81%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

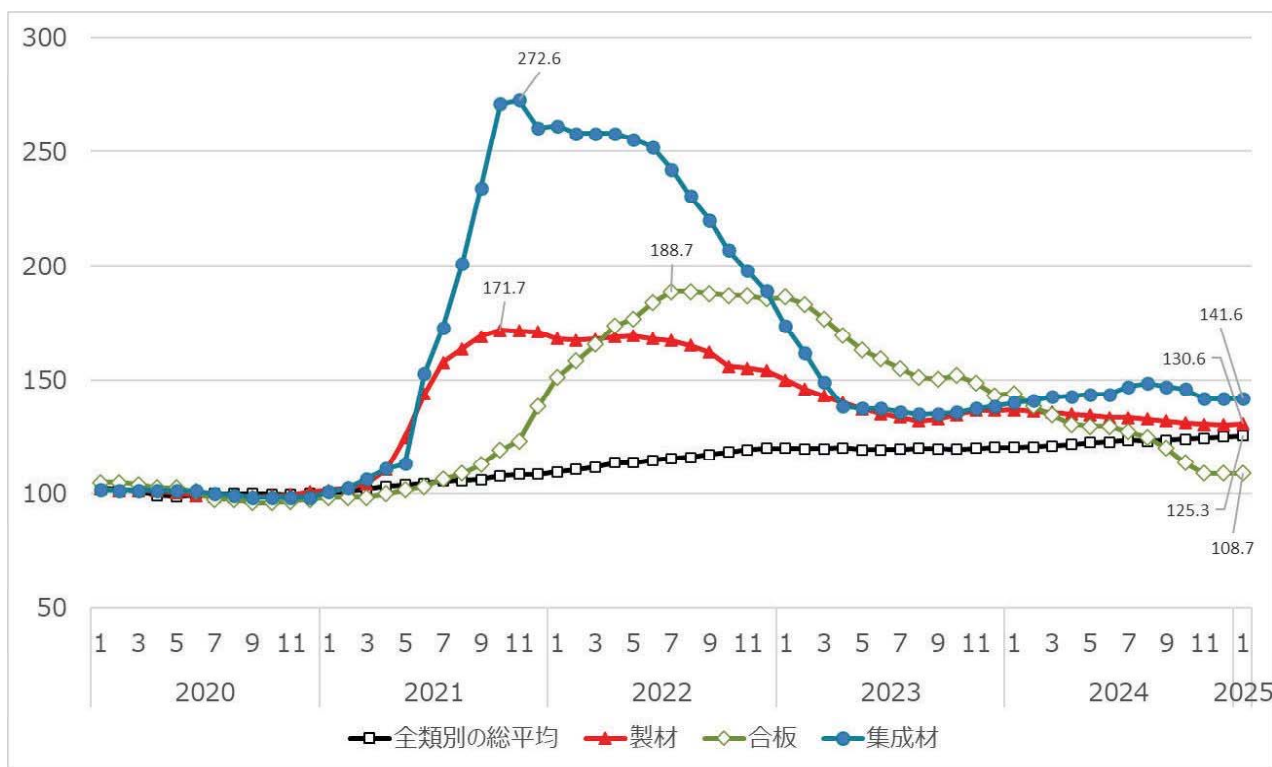
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

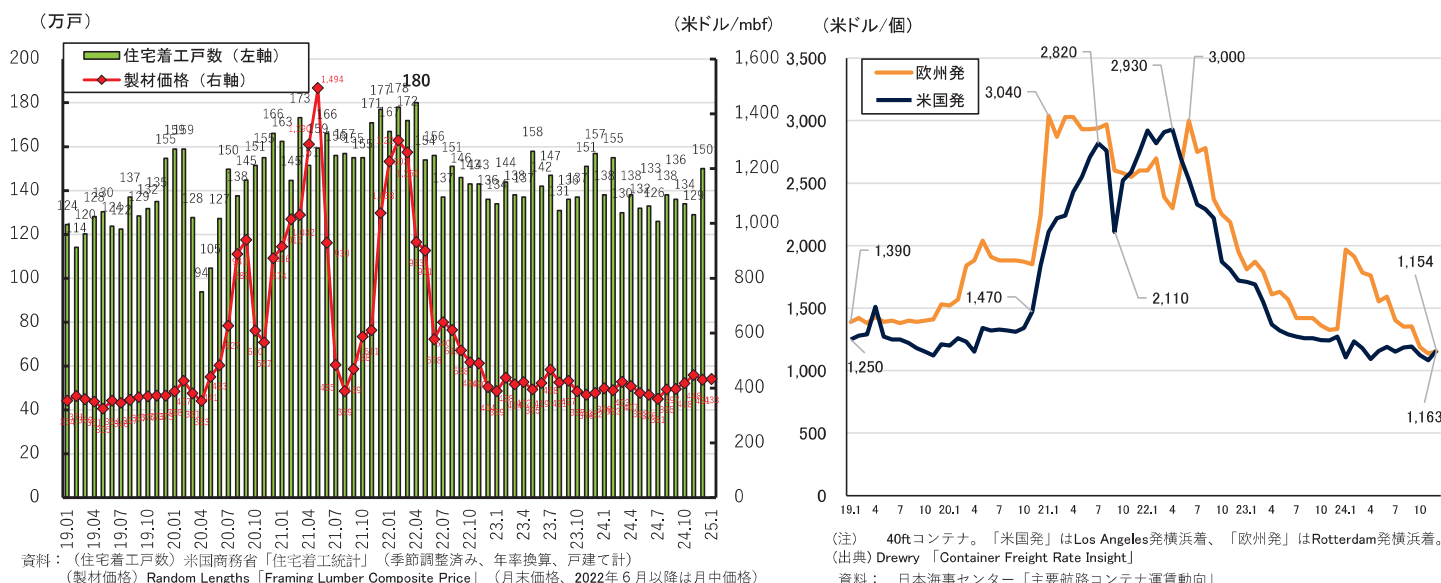


資料：日本銀行「企業物価指数」

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について（林野庁木材貿易対策室）

- **米国の住宅着工戸数**（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後回復し、2022年5月からは概ね130～150万台で推移。2024年12月は前月比+16%増の約150万戸。
- **北米の木材価格**は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年5月には1,494ドル/mbf、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2025年1月は433ドル/mbf（前月比0%）。
- **日本向けコンテナ運賃**は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフシシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が一時高騰。



(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。
 (出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」
 資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

日本向けコンテナ運賃の推移